

チキリンばやし



大分市／チキリンばやし推進実行委員会

チキリンばやしとは

神の祭りに太鼓と鉦(かね)が古くからよくつかわれています。しかし大分のチキリンばやしは鉦が中心になり太鼓がこれにそつておこなわれるおはやしで、この鉦をチキリンと呼ぶのはそのたたき方に大きな特徴があり鉦の丸い輪の部分とたいらな底の部分をコンコンチキリン チキリンと交互に、しかもテンポを早くたたくもので、ずい分昔から大分の祭りばやしに伝わっているもので全国的にも珍らしい。このチキリンばやしのリズムを主軸にメロディをつけ歌詩に振りつけたものがこのチキリンばやしです。

チキリンばやしができるまで

「大分市には、市民挙げての祭りのときなど、めほとか市民全員が楽しく踊れる大分独特の民謡をつくらう」と、いう意見が市民各層の間におこり急に高まって参りましたので昭和45年4月制作準備委員会の発足をみ、その準備にとりかかりました。

さつそく市民の作詩、作曲、振付の専門家十数名を専門委員に委嘱阿波踊りのように子供から老人まで、だれでも楽しく簡単におどれるものというテーマのもとに、先ず大分の方言を面白くとり入れた詩ができ、次に古くから大分市に伝わるチキリンを基調とした曲、そして勇壯で気安く踊れる振付ができました。以来会合すること18回、5ヶ月間に及ぶ長い間の専門委員の方々による研究と努力により郷土色豊かな大分「チキリンばやし」がめでたく誕生したわけであり

